

## 患者由来前立腺癌 Xenograft モデルを用いた新規アンドロゲン受容体標的遺伝子の探索

小林 恭、小川 修

京都大学大学院医学研究科泌尿器科学教室

本研究の目的はヒト前立腺癌 Xenograft を用いて CRPC 特異的な AR 依存性遺伝子シグネチャを明らかにし、CRPC における新規の治療標的分子を同定することであった。

そのためにまず、去勢抵抗性を獲得したヒト前立腺癌 Xenograft KUCaP2 の増殖が AR 依存性であることを確認することを目的とし、去勢抵抗性増殖期にある腫瘍に AR に対する siRNA をアテロコラーゲンを用いて投与したところ、AR の発現低下とともに腫瘍増殖の抑制を認めた。このことから、KUCaP2 は血清テストステロンが去勢レベルまで低下した状態下における増殖においても AR に依存していることが示された。

次に去勢前増殖期・去勢抵抗性増殖期それぞれの KUCaP2 腫瘍組織を採取し、クロマチン免疫沈降法 (ChIP) に供し、両条件下で AR が結合している遺伝子領域の特定・比較解析を行う予定である。

